

1 主題名 自分で考え、誠実に行動するとは 【A－(1) 自主、自律、自由と責任】

2 教材名 「三年目の「ごめんね」」(光村図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値(内容項目)について

本主題は、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の内容「A 主として自分自身に関すること (1) 自主、自律、自由と責任」の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」をねらいとしている。

思春期を生きる生徒にとって、人間関係はごく限られたものであるが、自身と仲の良い友人だけでなく、他の生徒からどのように見られているのか、どのように思われているのかを気にし、悩んでしまうことも少なくはない。大人に向かう発達段階の途中では、心の中で規範意識が確立されていても、周りに流されてしまったり、本音を飲み込んでしまったりすることもある。一時勇気を出して行動したとしても、自身の行動を継続することができず、投げ出してしまうこともある。中学3年生という多感な時期ではあるが、物事の善悪を自ら考え、判断し、周囲に流されずに誠実な行動をとることで、自他を大切にすることができ、自らの生き方に自信と誇りをもちよりよく生きることができることに気付ける授業を展開していきたい。

本時では、誠実な行動をとり切れなかった小学校6年生のときの私と、とっさではあったが、「ごめんね」と言えた私の心情を比較することで、真心をもって人に接することを大切にし、よりよい人間関係を築こうという態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態(34人)

実態調査 (34人 令和3年5月21日 実施)

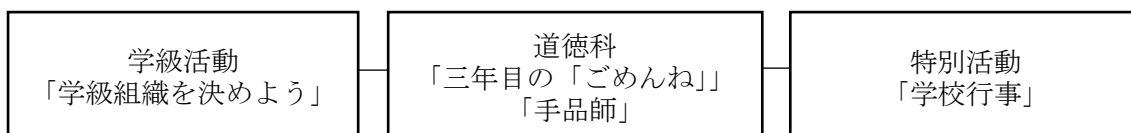
実態調査として、内容項目に関するアンケートを実施した。結果から、「自分で決めたことを最後までやりとげるようにしている」という項目で、「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答した生徒が29人、「困っている人に積極的に声をかけている」という項目では、同様の回答をした生徒が30人であった。その反面「人からどのように思われているのか、どのように見られているのかが気になる」と答えた生徒が19人だった。これらのことから、自身の中の正義感がありつつも、友人達の目を気にして伊藤さんから離れてしまった主人公の「私」との共通点があることに気付けるようにしたい。また、「誠意がないと感じる行動」については「自分だけの損得しか考えていない人」「見て見ぬ振りをする人」という回答もあったので、授業の導入で紹介し誠実な態度について考える一助としたい。

(3) 教材について

本教材は、主人公の「私」が、修学旅行中に一人でいる伊藤さんを気にとめ、罪悪感から一度は「一緒に行動しよう。」と声をかけるが、他の友人の反応を気にして自分が孤立してしまうことを恐れ、誘うのをやめてしまうことを描いた読み物教材である。

本教材を通して、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」を達成するためには、登場人物の姿や自分の経験、友人との意見交流を踏まえ、様々な角度から考えを深めることが必要であると考え。そのために、導入では、誠実でない行動とはどのようなものなのか、生徒たちの自演による動画で自身の行動を振り返られるようにする。その上で、不誠実な行動を取ってしまうのは、誰にでも起こり得ることであると認識し、「私」の姿を共感的に見つめながら、自分事として考えられるよう授業を展開していく。

4 他教科との関連 自主、自律、自由と責任



5 本時の学習

(1) ねらい

自分で考え、真心をもって行動することの難しさを共感的に考える活動を通して、日常の小さな行動であっても、自ら考え、判断し、誠実に行動しようとする道徳的実践意欲と、態度を育てる。

(2) 準備・資料

・読み物教材「三年目の「ごめんね」」 ・ポートフォリオ ・ワークシート ・水性マーカー
・グループ用発表用紙 ・P C ・プロジェクター

(3) 本校の研究課題である「生徒指導の機能を生かした授業づくり」のための本時の重点

〈決定〉最終発問で、今後自身がどのように行動していきたいか考えることで、自己決定の場を設ける。

〈存在〉GWの中で、全員が発言する機会を確保し、頷きや相槌を打ちながら聞き合うことで自身の意見も価値のあるものだという実感をもつ。

〈共感〉自分と異なる他者の意見も受け止め、尊重し合うことで、ありのままに自身のことを語り、理解し合える場面を設ける。

	主な活動(・) と発問(○)	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価
導 入	1 アンケートの結果を確認する。 ・不誠実な行動についての動画を鑑賞する。	・自分で決めたことをやりきれていないな。 ・自己中心的かも……。	○ ICT機器を活用し、ねらいをより身近な問題に感じられるようにする。 ○ 誠実について簡単に意味を説明する。
展 開	2 教科書を読み、話の内容を確認する。 ・教師の範読を聴く。 ○「私」が伊藤さんを誘うのをやめたのはなぜだろうか。 (PW→ペア) 3 私の気持ちについて考える。 ○「ありがとう」と言われた時、私はどんなことを思っただろうか。 (PW→GW→全体) 4 今後の自分の行動について考える。 ◎これからの生活の中で「誠実」に行動したいと思うのは、どのような場面だろうか。どのような人に対してだろうか。 (PW→全体)	・自分も仲間外れになってしまう。 ・せっかくの修学旅行だから、楽しい思い出を作りたい。 ・誠実な態度を貫けなかったのに、「ありがとう」と言ってくれた。 ・声をかけたことは間違いではなかった。 ・一度決めたことは、きちんとやり遂げたい。 ・他人の目や意見に左右されずに、自分の決定に自信をもちたい。	○ 自律的な立場をとることができず、伊藤さんに不誠実な態度をとってしまった「私」の意志の弱さを共感的に見つめることで、誠実な行動を貫くことの難しさも理解できるよう促す。 ○ 周りの反応を気にしてしまうのは、大人の世界でもあり得ることを話すことによって、中学生だけの問題ではないことを伝える。 ◎ GWの中で全員が発言する機会を確保し、頷きや相槌を打ちながら聞き合うことで自身の意見も価値のあるものだという実感をもてるようにする。〈存在〉 ◎ それぞれの意見をグループで交流することで、自分と異なる他者の意見も受け止め、尊重し合うことで、ありのままに自身のことを語り、理解し合えるよう促す。〈共感〉 ◎ 今後自身がどのように行動していきたいか考えることで、自己決定の場を設ける。〈決定〉 (評) 日常の小さな行動であっても、自ら考え、判断し、誠実に行動しようとする発言や記述があったか。
終 末	5 本時のまとめをする。 ・誠実に生きることはなぜ大切なのか考える。	・よりよい人間関係を築くために、どのようなことができるだろうか。	○ ポートフォリオに授業後の感想を書くよう促す。